

Weekly Report



名古屋アイリスロータリークラブ

例会日	水曜日13:00～14:00	会長	竹内 裕子
例会場	ANAクラウンプラザ グランコートホテル名古屋	幹事	片桐 栄子
承認	2013年6月18日	公共イメージ 向上	早川 圭一



インスピレーションになる

2018～2019年度名古屋アイリスRCのテーマ

魅力あるアイリスに
(健全健やかに成長するアイリス)

●お問い合わせ：office@nagoya-iris-rc.jp

●公式WEBサイト：http://www.nagoya-iris-rc.jp

第260回 例会

2019年1月30日 13:00～

- 司 会 林 功 例会運営・司会委員
- 斉 唱 奉仕の理想
- 出席報告 出席者数 24名 / 37名
出席率 64.87 %
前々回修正出席率 86.48 %
- ゲ ス ト
- ビジター

ニコボックス

- 竹内祐子会長
本日は社会奉仕活動報告です。長谷川さんよろしくお願ひいたします。
- 安井 忠戦略委員長
本日は晴天なり

会長挨拶

■名古屋アイリスロータリークラブ

会長 竹内祐子

皆さんこんにちは。

先日、元日本女子代表監督「真鍋正義」さんのお話を聞く機会がありましたので、その話題を少々お伝えいたします。

元男子バレーボール選手で、その後、監督として。しかし36歳にしてプロ契約をシイタリアへ。そしてまた日本で、監督に。そう、元日本女子代表監督として、ロンドンでは銅、リオでは5位に。

試合中アイパットを持っての姿はテレビで記憶に新しいと思います。現在は、ビクトリーナ姫路のGM（ゼネラルマネージャー）です。ビクトリーナ姫路は、元全日本選手のオリンピックメンバーの引退後のステージとして経済面のサポートやプロ選手としてのポジション作りだそうです。

勿論今後、もっとバレーボールを広め子供たちにプロ選手になりたいと思ってもらえることもです。夢のあるチームづくりをとおりました。



お話の中には、いろいろキーワードがありましたが「ポジティブスパイラル」ネガティブになっても「できる・できる」とポジティブに監督は「モチベーター」でやる気を起こさせる人と。

最近では大阪なおみのコーチ「サーシャ」のメンタル面でのサポートが話題になりました。「なおみだったらできる。君はできる。必ず出来る」と信じている」などなど

世界で1位となりました。素晴らしいです。そして、「非常識を常識にする」とのお話が記憶に残りました。

常識の延長には常識の答えしかない。リスクのある選択をして新しいことに挑戦することが大事といっておられました。たくさんのキーワードを頂きました。

卓話

■職業・社会奉仕委員長 長谷川芳子

本日は、昨年12月3日、4日に行われましたアイリスロータリークラブ社会奉仕活動『病院にプラネタリウムがやってくる』についてのご報告の卓話です。

まず、事前の準備段階から、また当日奉仕活動に参加し、ご協力くださいました会員の皆様にお礼を申し上げます。また、アイリスからの参加人数に制限があったため、参加くださる予定だった方に、最終的にはお断りする形になってしまったことをお詫びいたします。皆様、本当にありがとうございました。このように、中日新聞にも掲載していただきました。では、岩田さんが作ってくださったパワーポイントを使ってご紹介していきます。

まず、病院にプラネタリウムを届けてくださった『星つむぎの村』という団体と、その代表の高橋真理子さんをご紹介します。

『星つむぎの村』は地図で探して見つかる村ではありません。「星を介して人と人をつなぎ、ともに幸せをつくろう」をキャッチコピーに、山梨県を拠点に星空文化の発信をしている団体です。

一般向けの星イベントはもちろん、なかなか本物の星空を見ることのできない人たちに星空を届ける「病院がプラネタリウム」プロジェクトなどを行っています。この写真の中に写っている青いビブスをつけているのが、星つむぎの村の方々です。全員ボランティアです。各地からこの日のために来てくださいました。

代表の高橋真理子さんは、プラネタリウムの中で、優しい言葉でみんなを癒してくれるその語り部です。山梨県立科学館在職中に天文担当としてご活躍されたのち、2013年に独立され、宇宙と音楽を融合させた公演や出張プラネタリウムを「届ける」仕事をされています。「宙先案内人」としての高橋さんのプラネタリウムでの語りは本当に感動します。高橋さんのプラネタリウムでの語りは、地球という星に生まれた私たち人間の存在がどれだけ小さいかということ、そして、日本という国の人間の一人に生まれたことの奇跡を教えてください。

では、今回の社会奉仕事業についてご説明いたします。昨年の夏前あたりから、メールでの打ち合わせをしながら準備を進めていきました。

最終的に、当日は、3つのプロジェクトに分かれることになりました。①名大病院の大会議室でエアドームを使ってのプラネタリウム②大会議室まで来ることができない子供たちのために、各病室での天井投影③アイリスロータリークラブが行う写真撮影とプレゼント会、会場の飾り付けです。



①と②のプラネタリウムに関しては星つむぎの村にお任せしました。アイリスでは、病院内の告知チラシや当日のアイリスメンバーの役割分担表を作り準備を進めていきました。

順番にご紹介していきます。当日の朝の打ち合わせの様子です。本当にたくさんの方が協力してくださっています。

①打ち合わせの後、ドームを膨らませていきます。大会議室に用意した、直径約4mの空気を入れて膨らませたテントのようなドームの中でプラネタリウムは行われます。この写真は、ドームに入る前に、子供たちが、星つむぎの村のスタッフから、紙芝居を使って注意事項などの説明を受けている写真です。みんな真剣に聞いてくれています。

そしてドームに入っていきます。点滴をつけている子供は、ドームの外に点滴を出して、体だけドームに入ります。「10,9,8,7,」子供達と一緒にカウントダウンが始まり、「さあ、目を開けよう」と言われた

瞬間、「うわー！」と歓声が上がります。(満点の星空の写真)ドームの空には満点の星空が広がっています。

「本当はみんなの頭の上にはいつもいつもこんなにたくさんの星が輝いていて、私たちのことを見守っていてくれるんだよ。だから、いくら願い事をしてでも大丈夫。たくさん願い事をしようね」こんな優しい語りからプラネタリウムは始まっていきます。その日の夜に見える星をたどったり、子供達一人一人の誕生日の星座を探したりします。(写真)自分の星座にまつわるお話を、子供達は興味津々に聞いていました。

そして、星座の話が終わると、宇宙旅行に行くプラネタリウムが始まります。ロケットに乗ったかのように宇宙に飛び出すと、美しい地球が見えてきて、火星や木星、土星などの惑星に向かいます。それぞれの星についての説明を聞きながら、今、みんながいるこの地球にしか生命がないということをお子達は教えられます。

ここに一枚の写真があります。(写真)この写真は、プラネタリウムの中でも紹介されましたが、この写真を知らない方が多いと思いますので、ご紹介します。ペイル・ブルー・ドットと名付けられたこの写真は、宇宙探査機ボイジャー1号が最後に撮影した地球の写真です。右側の茶色の帯の中にある小さな青白い点が地球です。1977年に地球を飛び立ったアメリカの宇宙探査機ボイジャー1号は、木星と土星の写真撮影に成功した後、海王星軌道よりももっと遠くに到達した1990年2月14日、この写真を撮り、地球に送ってくれました。この写真を撮る日までボイジャーは、地球からどんどん離れ宇宙へと進んでいきましたが、初めて進行方向から振り返り、太陽系全体の「家族写真」を撮ったのです。そこには、太陽系のまばゆい光の中に針の先ほどの地球が写っていました。はるか遠い宇宙から地球をのぞむ。それは、私たちが小さな星に住んでいると言う確かさと、不思議さをどこまでも教えてくれています。

プラネタリウム投影中に、「私たちはみんな星のかげらなんだよ」と言う話をしてくれます。そんなことを言われてもよくわからないと思います。でも、私たちの体を作っている、炭素、酸素、鉄などの成分は、すべて「星」からつくられたものなんだそうです。これは科学の研究で明らかになっていることです。星がなかったら、私たちは生まれていなかったのです。こんな星と人の関係についてを聞きながら、プ

ラネタリウムの宇宙旅行は終わっていきます。

ドームを出る頃には、子供たちはみんな笑顔でした。泣いているのは、大人です。社会奉仕副委員長の岩田さんは号泣されていました。私がドームに入った時も、隣のお母様も泣いていらっしゃいました。プラネタリウムが終わった後、愛おしそうにお子さんを見つめていらっしゃった姿を今でも覚えています。

②次に病室を出ることが許されていない子供たちのための、病室内での天井投影です。(写真)まず、天井投影を行うために、病室を真っ暗にしなくてはなりません。遮光シートを、病室の窓一面に取り付けていきます。一度使ったシートは、次の病室に取り付ける前に消毒スプレーをかけ消毒します。(写真)アイリスのメンバーもお手伝いしました。この作業を繰り返していきます。プラネタリウムの内容は先ほどご紹介したものとほぼ同じですが、個室の子供には、お子さんの星座だけでなく、お父さんお母さんの星座、その子が生まれた日の空にあった星を病室の天井に映していきます。GCUでの天井投影の様子です。NICUでの天井投影の様子です。(写真)重病のお子さんが多く、緊張した中での天井投影になりました。

③次に、アイリスロータリーの準備段階や当日の様子についてご紹介します。子供達へのプレゼントのラッピングを、竹内会長、片桐幹事、荒山さん、深水さん、長谷川で行いました。140名分の子供と保護者のプレゼントですので、相当の量でしたが、皆さんテキパキすごかったです。2時間休憩なしであっという間に終わりました。ありがとうございました。

当日の会場の様子です。飾り付けをクリスマスっぽく、またたくさんの風船を用意して、プラネタリウムを見た子供達に、一つずつプレゼントしました。

写真撮影では、可愛いスクリーンの前に座ってもらい、ポラロイドカメラで写真を撮り、その写真をそのまま子供達に渡しました。写真を撮ってから、用意したプレゼントを渡します。みんな嬉しそうにもらってくれました。プレゼントは、プラネタリウムを見た後は、星や宇宙についてもっと知りたくたっているのではと考え、星にまつわるものを選びました。赤ちゃんにはガーゼのタオルやバスタオル、その他の子供には、星や星座の本、室内用のプラネタリウムプロジェクターをプレゼントしま

した。また父兄の方には、シャンプーとトリートメントをプレゼントしています。

140人分のプレゼントは大変な量で、病院まで運ぶのに苦労しました。当日の朝、藤谷さんと岩田さんが運んでくださったのですが、その量を見て倒れそうになっていましたが、子供達の嬉しそうな顔を見れたので、苦労したことも帳消しになっていると思います。

また、名城ロータアクトから2名応援に来てくださいました。(写真)

会長の鈴木さんがサンタクロースの衣装を着て、プレイルームで子供達にプレゼントを渡してくれました。

ご家族、看護師さんや医療スタッフの方から頂いた感想を、チャイルドライフスペシャリストの方が表にまとめて送ってくださいましたので、ご紹介します。

(紹介 省略)

こういった感想をいただきました。ご協力くださった全ての方に心より感謝いたします。

最後になりますが、星を見ることや、宇宙を知ること、人は勇気付けられたり、気持ちが落ち着いたり、頑張ろうという気持ちになることを知りました。

本物の星空を見られない人たちにこそ、プラネタリウムはさらに力を発揮できるのだと思います。

子供達は、きっと、病気が治りますようにとプラネタリウムの星に願ったと思います。毎日、白い天井を眺めている子供達が、この日は、満点の星空を見て少しでも元気になっていてくれたら嬉しいです。

以上が、今年度のアイリスロータリークラブ社会奉仕活動の内容です。

(原文 そのまま掲載。多数の写真省略。)